

外来診療のテクニック

匠に学ぶプロのコツ

耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域の魅力として、「外来・手術のどちらもできる」という点がよく挙げられる。優れた「手術書」は国内外から出版され、人気を博すが、優れた「外来書」というのは「あるようでない」のではないだろうか。私が専門医取得前に必死に外来診療を行っていた際、当時の指導医の先生がされていた外来を可能な限り見学し、外来のコツを学び取ろうとしていた。また、当時出版されたばかりの『一人で対処する耳鼻咽喉科診療』¹⁾という単行本を何度も読み返して、外来で独り立ちできるよう必死であったことを思い出す。

耳鼻咽喉科外来は、単なる知識のみではうまくこなせない。所見を正確に取るための手技の工夫、局所治療の工夫、そして感覚器医学という特殊性ゆえに、患者さんの「主訴（何に困っているか）」を正確に聞き取る力、うつや不安などの心理的背景への配慮、など多面的な要素が求められる分野である。

外来は経験を積んだベテラン医師の工夫の宝庫であり、多面的な「匠のコツ」を学ぶ場があれば、多くの耳鼻咽喉科医にとって貴重な機会になることが期待される。本書は、各分野の「プロ」であるベテラン医師に、惜しげもなくその「コツ」を披露していただいた貴重な特集号となった。ぜひその「匠の技」を参考に外来診療の腕を磨いていただきたい。

参考文献

- 1) 飯沼寿孝・他（編）：一人で対処する耳鼻咽喉科診療，南江堂，東京，2000

大石直樹（慶應義塾大学医学部耳鼻咽喉科学教室）